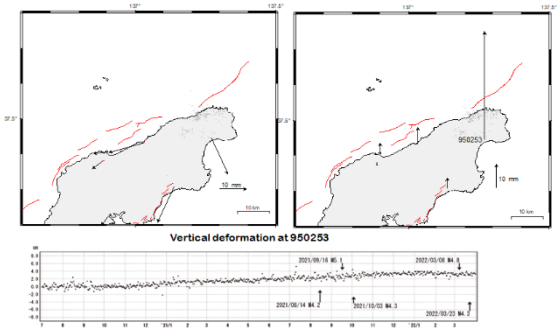
測地学的に見た令和６年能登半島地震と先行現象

宗包　浩志（国土地理院）

ポイント

- 能登半島では2020年12月頃から群発地震を伴う非定常的な地殻変動が観測されていた．地殻変動は開口を伴うゆっくりすべりで説明でき、流体が関与しているのではないかという報告がされている．
- 2024年能登半島地震では、既存のセグメントに沿ってすべりが発生した．西端は2007年の地震の断層東端付近に位置する．
- 余効変動は粘弾性緩和と余効すべりが大きく寄与している．余効すべりは地震時すべりと相補的であった可能性がある．



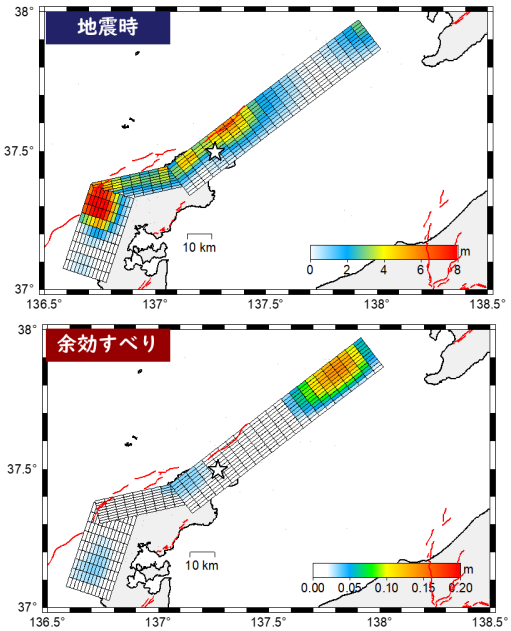


図１(左)　2020年冬頃から能登半島で観測されていた非定常地殻変動．

図２(右)　令和６年能登半島地震による地震時すべりおよび余効すべり．余効すべりは，観測された余効変動から粘弾性変形を考慮して推定した．